

# 平成 15 年度 学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

学校名	豊丘村立豊丘南小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	22
児童数	64	60	68	55	65	62	6	380	

## 研究の概要

### 1. 研究主題

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善のあり方（2 年次）  
 —— 算数習熟度別コースのあり方と指導に生きる評価の工夫 ——

### 2. 研究内容与方法

#### (1) 実施学年・教科

・ 4, 5, 6 年生・算数  
 これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から、理解の状況に差が出やすい学年、教科であるため。

#### (2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善のあり方（1 年次）                  —— 少人数学習算数に焦点を当てて ——</p> <p>仮説 子どもたちが、算数の授業において、「わかる」「できる」喜びを味わいながら、基礎・基本を身に付けていくためには、一時間の授業を次の a ~ f に沿って行う学習指導を繰り返していけばよい。</p> <p>a 本時身に付けさせたい基礎・基本を明らかにする。                  b 定着に当たって予想されるつまずきと手だてを明らかにする。                  c 個人追究では、手だてを基に個別指導を行う。                  d 共同追究では、困ったことを基にして、その解決方法を考えていく。                  e 一般化では、まず定着を確認する問題を出し、一人一人の定着状況を確認する。                  f つまずいている子には個別指導、できた子には習熟・発展問題を与える。</p> <p>研究内容・方法                  指導体制の工夫                  7. 少人数学習の基本的な体制のあり方                  ・ 2 クラスを等質集団 3 コースに分けた少人数指導。                  1. 日課等の工夫                  ・ 朝ドリル、朝読書の実施や補充・定着・発展学習に充てる学裁の時間の確保。                  指導方法の工夫                  7. 上記仮説に沿った授業を行う。                  検証の方法                  7. 授業を通じた仮説の検証                  ・ 検証授業を通して、一時間での基礎・基本の定着状況を定着・練習問題の正答率で判断する。                  ・ 自己評価カード、授業中の観察により、喜びを得たか判断する。                  1. 長期的な検証                  ・ 単元テスト、小中学校学力実態調査（平成 12 年度県教委実施の調査）、観点別到達度学力検査を実施し比較していく。                  ・ 児童の意識調査を年間 3 回行い、児童の算数学習に対する意識を比較していく。</p>
----------------	--

平成 1	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善のあり方                  —— 算数習熟度別コースのあり方と指導に生きる評価の工夫 ——</p>
---------	---

5 年 度	<p>仮説 子どもたちが、算数の基礎・基本を確かに身に付けていくためには、習熟度に応じたコース編成の中で、本時の評価規準と評価方法を明らかにし、つまずきに対する手だてを準備し、指導と評価の一体化を進め、「わかった」「できた」という経験を重ねるとよい。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1)習熟度別コース編成の方法 「既習を確認しながらじっくり定着をはかる」じっくりコース、「等質での授業と同じように進めていく」しっかりコース、「習熟・発展問題にも多くチャレンジする」はりぎりコースの3コースに分ける。レディネステストとアンケートを行い児童の希望によってコースを決める。その際、児童が全く合わないコースを選ぶようであれば、適切な助言を行う。 評価規準は、どのコースも同じである。同じ教育目標を実現するためには、「じっくりコース」の単元展開を基に単元の指導時数を決め、各コースの単元展開を作成していく。 「じっくりコース」には、補充的な学習の時間を多く取り入れる。その他のコースでは、習熟の時間や発展的な学習の時間を位置づける。全てのコースで単元テスト前に「プレテスト」を行い、補充的な学習の時間とする。</p> <p>(2)評価規準を基にした評価と指導 「単元の評価規準一覧表」の作成 1時間毎の評価規準と評価方法を明らかにし、「1時間に1つの評価」を基本とする。しかし、「知識・理解」と「表現・処理」の観点は、抱き合わせて評価することもある。「じっくりコース」に合わせて「単元の評価規準一覧表」を作成し、他のコースではそれを基に単元展開を工夫していくが、どのコースも単元テスト前にプレテストを行う補充的な学習の時間を位置づける。</p> <p>評価方法の焦点化 子どもの学習状況を適切に評価し、評価の判断にコース毎の差が出ないように、評価する場面や方法をより焦点化する。</p> <p>「見返しカード」の作成 子どもの学習状況をより適切に評価するためには、教師の評価だけでなく、児童の自己評価も取り入れて判断していく必要がある。授業の終わりに短い時間で自己評価できる「見返しカード」を作成する。評価項目は、本時の評価規準を児童の言葉で表した内容とすることで、子ども自身も自分の苦手なところを意識することができる。と考えている。</p> <p>つまずきに対する手だての準備 本時のねらいに即してつまずきを予想し、C評価の児童が出ないようにする手だてや、C評価と判断した場合はB評価へ上げるための手だてを準備する。</p> <p>指導と評価の一体化を進める 前述 から を基に、学習の過程における評価を一層重視し、評価の結果として指導が必要な場合にはすぐ行っていく。そのために、個人追究や一般化の段階で、机間指導をしたり、できた児童から持ってこさせたりして1時間の授業の中で必ず全員の考えを確認する場をつくる。</p> <p>(3)算数学習に関する意識調査の実施 興味・関心、理解の程度に関する意識調査 習熟度別コース実施に関わる意識調査</p> <p>(4)学力検査等による基礎・基本の定着の確認 単元テストの平均点の比較 小・中学校学力実態調査（h12年度県教委実施の問題） 教研式標準学力検査（CRT）</p> <p>(5)仮説の検証方法 検証方法1 「算数学習に関する意識調査の結果」を比較し判断する。 検証方法2 「学力検査等による基礎・基本の定着の確認」から判断する。 検証方法3 検証授業を行い、授業仮説から判断する。</p>
-------------	---

平 成 1 6 年	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善のあり方（3年次） —— 習熟度に合った教材の開発とその指導 ——</p> <p>研究の見通し 子どもたちが、算数の授業において、「わかる」「できる」喜びを味わいながら、</p>
-----------------------	---

度 基礎・基本を身に付けていくための、子どもの習熟度に合った教材を開発し、その指導方法を研究していきたい。

研究内容・方法

(1) 習熟度に合った教材の開発

同じ単元での習熟度コース別教材の開発  
 検証授業を通しての指導方法の蓄積

(2) 検証方法

検証授業を通して、一時間の定着状況を分析し、開発した教材の有効性を検証する。

単元終了後、単元の定着状況を単元テストで分析する。

検証授業後、または単元終了後に児童の意識調査を行い、開発した教材の児童の関心・意欲・態度面への有効性を検証する。

小中学校学力実態調査（平成15年度県教委実施の調査）、観点別到達度学力検査を実施し、基礎学力の向上を検証していく。

(3) 研究推進体制

少人数学習指導推進委員会

（メンバー 校長，教頭，研究主任，少人数学習加配教員，該当学年担任）

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 興味・関心と理解の程度に関する意識調査の結果と考察

h15年度6年生への調査であり、h14 4月はクラスを半分にする等質コース実施後、h14 7月は学年2クラスを3つの等質コースで実施後、h15 3月は単元「5学年のまとめ」を児童の希望による習熟度別3コースで実施後、h15年7月は単元「計算の見積もり」で児童の希望による習熟度別3コース実施後の調査である。

ア このごろ算数は好きですか？（％）

	好き	少し好き	ふつう	少しきらい	きらい
h14 4月	24	23	30	20	3
7月	30	27	21	19	3
h15 3月	42	31	20	5	2
7月	36	37	16	8	3

イ 算数の授業はわかりますか？（％）

	よくわかる	だいたいわかる	わからないことも時々ある	わからないことが多い
h14 4月	21	35	38	5
7月	33	33	32	2
h15 3月	55	36	9	0
7月	68	24	8	0

アより、習熟度別コースの実施後に、「少しきらい」という児童が大幅に減り、「好き」「少し好き」という児童が増えている。また、イより、少人数学習が等質コースから習熟度別コースへと進むにつれて、「よくわかる」という児童が増え、「わからないことも時々ある」「わからないことが多い」という児童が減っている。

また、児童の希望による習熟度別コースを設定した後(h15 3月以降)より、理解や算数への関心が増している。

以上の点から、習熟度別コースの指導によって、児童が「わかった」「できた」という体験を重ねることができ、基礎・基本の理解と関心が増してきたと考えられる。

(2) 6年「計算の見積もり」習熟度別コース実施後の意識調査と考察

ア 自分でコースを決めて学習してみようでしたか？

	よかった	ふつう	あまりよくなかった
人数(人)	50	11	1
％	80.6	17.7	1.6

イ そのわけは？

じっくり ・あまりよくわからなかったところが、わかるようになったから。

・ちょうどいいくらいだった。

しっかり ・自分のスピードにあっている感じでやりやすかった。

・普通のスピードでわかりやすい。

・いそがずにしっかり覚えられた。

はりきり ・どんどん進んでいってよかった。

・難しい問題ができた。

学習コースアンケートを行ってコースを決めさせたことにより、全く合わないコースを選ぶ児童はなく、「ア 自分でコースを決めて学習して良かった。」という児童が全体で80%を越え、習熟度によるコース別学習の満足度は高いものとなった。

また、単元テストの平均点が、「じっくり」88点、「しっかり」90点、「はりきり」

9 2点となり、それぞれのコースに応じて基礎・基本の定着が図られたと考える。  
 以上の点から、6年「計算の見積もり」での習熟度別コースの指導は、子どもたちの算数への関心を高めると共に、「わかった」「できた」という経験を積む機会となり、基礎・基本の確かな定着を図るために有効であったと考えられる。

(3) 学力検査等による基礎・基本の定着の確認（6年）

長野県小・中学校学力実態調査との比較

h12年度県教委実施と同じ調査問題で毎年7月に行っている。学習指導要領の変更で学習していない問題は除いて正答率を算出した。ただし、h15年10月は県教委の新たな調査問題による。この調査の県平均はまだ出ていない。

	h14 7月		h15 7月		h15 10月	
	県	本校	県	本校	県	本校
正答率	69.8	73.7	57.3	66.6	-	75.9
差	+3.9		+9.3		-	

2回の調査であるが、年ごとに県平均との差が広がってきている。また、h15年10月は、まだ県平均は出ていないが、正答率は今までで一番高くなっている。これらのことから、6年生では基礎・基本の確かな定着が図られていると考えられる。

2. 今後の課題

6年生では、3年間の少人数指導の継続があり、さらに習熟度別コース学習を随時行ってきたことにより、仮説がほぼ当てはまる結果となった。しかし、少人数指導を行っているが、基礎・基本の定着にあまり向上が見られない学年もある。今後、そのような学年の児童の実態をどう捉え、どんな教材を開発し、どう指導していけばよいかを課題である。

学力等把握のための学校としての取組

- 小中学校学力実態調査（国語・算数）の実施（7月）
- ・県平均との比較を行うため実施。
- 観点別到達度学力検査 CRT（国語・算数・理科・社会）の実施（1月）
- ・全国平均との比較を行うため実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 第1回学力向上フロンティア事業地区協議会
  - ・平成15年5月30日 飯田合同庁舎
  - ・<対象> 小中教員 <内容> ・研究の計画，方向の発表 ・主事との協議
- 第2回学力向上フロンティア事業地区協議会
  - ・平成15年8月11日 飯田合同庁舎
  - ・<対象> 小中教員 <内容> ・実践発表 ・事例による研究協議
- 学力向上フロンティアスクール公開授業
  - ・平成15年11月28日 豊丘南小学校（本校）
  - ・<対象> 小中高教員・保護者 <内容> ・検証授業 ・授業研究会 ・講演会

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】
  - 6学級以下  7～12学級
  - 13～18学級  19～24学級
  - 25学級以上
- 【指導体制】
  - 少人数指導  T・Tによる指導
  - 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】
  - 国語  社会  算数  理科
  - 生活  音楽  図画工作  家庭
  - 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無